

古民家に学ぶこと

夢木香の住まいづくり

夢木香は自然素材にこだわり施工します。素材は身近にあります。施工するためには職人の技術が必要です。木や竹や土や紙や藁を、大工、左官、瓦、建具、畳職人たちが力を合わせ仕上げでゆきます。

古民家の再生を手がけることにより、昔の職人たちと会話ができます。力強さと優美さを兼ねそなえた丸太の木組み、落ちついた風合いのいぶし瓦、漆喰の美しさと、そり壁の優美な曲線、繊細な、透かし彫りの欄間や組子など、いたるところに昔の職人の心意気が感じられます。その技術を伝承し、次世代に伝えてゆくことが大切だと感じます。古民家の再生に学び、その技術と思想を、新築やリフォームにいかしてゆくことが、私たちのつとめだと考えます。

本当のエコ住宅とは

近年、エコ住宅をうたいもんに、高気密高断熱がさかんにとなえられています。通気を遮断し、吸湿性のないビニールクロスの家が多く見受けられます。結露が発生しやすく、カビの原因をつくり、カビがダニを呼び、ダニの死骸がアレルギーを誘発します。それを選けるためには、エアコンや換気扇あるいは除湿機や加湿器や空気清浄機が必要です。つまり、設備機器を効率よく使うための工法です。設備機器がなかった時代に造られた古民家には、機械をつかわない工夫があります。呼吸する自然素材がふんだんにつかわれ、梅雨や夏の暑さをしのぐ知恵があります。寒さに対して、適度な気密と断熱をとれば、暮らしやすい住まいになります。本当のエコとは設備機器をできるだけつかわない住まいだと考えます。

200年住宅

ようやく住宅の耐久性が見直されてきました。日本の住宅の寿命は30年です。30年では木が循環していきません。木材の80%を輸入し、30年の住宅寿命しかない住宅しか造られていないのが現状です。技術がないわけではないではありません。日本には100年～200年の住宅、200年～500年の寺社仏閣は数多く存在します。自然の実物大実験を経た伝統的構法には学ぶべきものが多くあります。台風が襲来し、地震が多く、梅雨がある過酷な建築条件の中で耐えてきた古民家に学び、新築やリフォームも、家づくりは子や孫たちのためにとの思想を取り戻したいと考えます。

五感で感じる住まい

今、この季節、さわやかさを感じてほしい、木と土壁がもつ調湿作用で。本物の自然素材のにおいを、木の香りと漆喰や畳のにおいで。肌にあふれるこちよさを、無垢の床板をはだして歩いてください。キッチンも洗面も浴室も無垢材の手造りです。見て楽しんでください、伝統的な木組みと、骨太の木組みが持つ安心感を。耳を澄ましてください、響かない音を、木や土は音を吸収します。適度な反響、なぜなら多くの楽器は木製です。今、まわりの環境は、無機質な物、人工的な物に変わりつつあります。せめて家の中だけでも、こちよ空間がほしいものです。子どもたちに自然のハーモニーを聴かせてあげたいものです。

住まい人の想い

再生古民家・井手邸に住んでみて 井手様

私の実家、古い土蔵造りの家を約1年半かけて改装し平成21(2009)年10月に完成、12月に住み慣れた太宰府市から移り住み2年を経過しました。再生になった古民家井手邸に住んでみて感じたことを少し書いてみます。

この家は基本的には「木」と「土」と「紙」で出来ていて自然の素材がほとんどです。

木はとても強いことを知りました。私の家は築120年くらいかなと推定されますが、その時の木がきちんと残っています。木は切ってから300年間は強くなりその後は長年かけて徐々に切った時の強さに戻るといわれています。法隆寺や正倉院の木造建築物が1000年以上経っても健在なのはその証です。

この家は120年くらい前に新築されたものですが建材を見てみるとその時点で既に多くの古材が使われています。その頃はそれが当たり前のことだったそうです。伝統的な古民家は何度も何度も修理をしていつまでも使えます。

戦後の日本では合板や外材などの新建材で家を建てるようになり見かけはきれいですが30年もすると老朽化して撤去しなければなりません。

これからでも遅くはありません、古民家として残っているものがあればぜひ再生して残しておきたいものです。

「古民家の生活は自然の中の生活です」

木と土と紙は自然の空気に対応して自動的に調節してくれます。木は温度の調節だけではなく湿度の調節もしてくれます。風呂場や縁のガラスに結露はつきません。土壁の家は夏はひんやりと涼しく冬はほんわりと温かく感じます。これも木と同じく調湿性や調温性を持っているからです。障子(紙)は開閉により温度調節や光の調節が出来、障子を通して入ってくる光はとても柔らかく穏やかな雰囲気を出してくれます。まさに森の中に身を置いているのと同じではないでしょうか。

〈木〉

- ・吹き抜け
従来の蔵の部分の吹き抜けに改造しギャラリー風に回廊を作り小道具などの置き場にしています。吹き抜けのよさは、まずは空間が大きく広がり開放感が味わえます。そして天井には見事な木組を見る事ができ古民家の醍醐味を堪能できます。また、回廊には当家で永年使ってきた古い漆器や焼き物などを飾っていますが昔の当家の生活ぶりを垣間見ることができ様々な思い出が甦ってきます。
- ・木組みの素晴らしさ
天井を見上げるとグリグリとくねった梁が天井の最上部にありそこを基点に長い梁や柱が組み合わされ自然の木立のようにバランスよく配置されています。現代のシンメトリックな造詣ではなくアンバランスの造詣が見て取れます。見て飽きません。
- ・床の温もり
厚さ4cmの杉材で床を張ってあります。真冬に裸足で歩いて冷たさを感じません。逆に温もりさえ感じます。夏はひんやり感が心地よいです。
- ・古材と新材のバランス
従来からの柱や梁、天井などは永年の歳月を経て黒褐色にくすみ何ともいえない色合いをにじませています。一方で新しく出来た柱や床は新材の白木のままで使用されています。その新旧のアンバランスに違和感はありません。既に白木は少しずつ赤みがつき始め5～6年後にはどのような色になるのか今から楽しみです。
- ・仏壇と座敷の欄間
先祖から伝わった仏壇を腕利きの仏具師にお願いして修理しました。小さな細工物の修理もでき金箔もはりなおされ仏壇は見事に光輝いています。毎日御先祖様にお参り出来る喜びをかみしめています。前からあった座敷の欄間や縁側の欄間が今回の改装によって改めてその良さが浮き彫りになりました。
- ・木の持ち味・個性
使われている柱・床板・壁板の木々には各々個性があり色・つや・模様など一つとして同じものはありません。それらがうまく調和し合っていて楽しくなります。木にはどっしり感あり、しっとり感あり、きらびやかさはないが年輪を感じる深さが味わえます。
- ・商家の佇まい
呉服屋時代の格子戸や大戸が残っており昔の商家の雰囲気伝わります。
- ・フィトンチッド
木は自らを守るためフィトンチッドと呼ばれる物質を伐採された後でも発散しています。この物質が健康に良いとされ森林浴が推奨されていますが家の中にいながらにしてフィトンチッドを浴び森林浴をしていることとなります。

〈土〉

- ・漆喰壁
竹を格子状に組んだ竹小舞と呼ばれる芯の部分に壁土を塗りつけ乾燥させて漆喰を塗って仕上げます。その厚さは20cmにもなります。まず感じることは色の白さです。外壁は朝日、夕日、満月、新月にも映えてとても美しく、外から家を見るのが楽しみの一つです。内では土間の壁、床の間の壁など気品にあふれ柱や障子・壁と調和し心を和ませてくれます。
- ・土間(タタキ)
赤土・砂・小砂利に消石灰と「にがり」をまぜて固め徹底して叩いて造られた土間(タタキ)はコンクリートには無い柔らかく味を帯びた硬さがあり大地の温もりが伝わってきます。
- ・瓦
屋根は淡路産のいぶし瓦4,500枚で葺かれています。銀ねず色の瓦で白壁に柔らかく調和しています。満月の夜の瓦の輝きは幻想的で格別の趣があります。

〈紙〉

- ・戸・障子
戸と障子は和紙とガラス張りです。和紙は光を和らげて室内に明るさを届けてくれ部屋中をやわらかく包んでくれます。昔ながらの「竹の雀」のデザインのガラスが家に残っていたのでこれを使った障子を建具師に特注して作りました。なかなか新鮮なデザインになって昔を懐かしみながら、雰囲気も味わっています。佐賀の特産品に「名尾和紙」があります。名尾までみんなで見学に行き2・3種類選んで購入し家内たちのアイデアで小窓の障子を作りました。渋い伝統的な色がかえて斬新に仕上がっています。
- ・縁側のガラス戸
私の家には小さな中庭があり、ここの縁側には幅広い大きなガラス戸を配しています。光を十分取り入れ中からは庭の緑や庭木・石などが鑑賞できるようにになっており、ほっとする空間を演出してくれています。

【住み心地は】

- 年間を通して住んでみて冬の寒さを感じることはほとんどありません。電熱器を使用した掘こたつで十分暖まります。春・秋は季節のままに快適に過ごせます。夏は特別に暑い日を除きクーラーを使用することはほとんどありません。扇風機で間にあいます。
- 台所、風呂はオール電化とエコキュートにしました。光熱費はガス代や灯油代が不要となり深夜電力を利用した電気料金一本になり大幅な節約になっています。伝統的な木造家屋と最新のエコ機器の利用によって我が家もエコ家庭仲間入りが出来たのではないかと感じています。
- 趣味や読書が出来る家内との共有の部屋や孫たちのための部屋、そしてウォークインクローゼットを作ったこともスペースに余裕ができ重宝しています。
- 古民家の「暗い」「寒い」「使いづらい」という問題点も見事に改善され、ストレスも少なくなり心身ともに快適な生活を送っています。私には5人の孫がいますが家に来ると喜んで走り回り木の家の感触を楽しんでいるように見えます。
- 家が完成し転居して以来、私の家には1,200人以上の方々がお見えになっています。古民家のよさや伝統的な木造建築の素晴らしさを求めてお見えになる方が多いようです。「よくそこのような家を残してくれませんか!」と仰ってください方も少なくありません。古民家は、「私個人のものではなく、皆さんのものでもあるのだなあ」と思えてきました。とくに我が家が長崎街道のそばに建っていることもあって、この家が歴史的意義も出てきたことを改めて感じています。
- 50年も故郷を離れていた私の家に多くの人が来てくださるというのも、この家が何かご縁をつくってくれているのではないかと感ずいたりします。
- 私達にも若干の気持ちの余裕もでき、家内は着物のリフォーム、私は佐賀城本丸のボランティアや地元八戸地区の歴史の研究などを楽しんでいます。近所の人のお付き合いも少しずつ広がっており友達も徐々にできつつあります。
- 早朝、私の畑で作った大根葉、春菊、チンゲン菜の若葉を摘んできておひたしと味噌汁を作ってもらいます。朝ドラを見ながらの家内と二人で味わう朝食は格別です。
- お蔭で家内をはじめ家族、兄弟たちの理解と協力があって今日があります。ご先祖様を始めいろいろな人に支えられた佐賀ライフは毎日毎日が快適で感謝の日々を送らせていただいております。
- 今回、古民家の改装をせず別の選択肢を選んでいたら大きな悔いが残ったのではないかと感じています。思い切ってよかったと思っています。

霜の朝菜を摘み妻に手渡せばやがて漂ふ朝餉の香り